

たいよう

発行所
大洋基礎工業株
たいよう新聞委員会

最前線レポート

・発注者 埼玉県越谷土整備事務所

・元請会社 東新建設株式会社

・工事名称 住宅市街地基盤道路整備工事

・改築整備工事合併取付道路工事

・工事場所 埼玉県八潮市伊勢野地先

・工 期 平成二十二年三月十日～

・工事概要 擁壁設置工事

・掘削深度 平均五・二m

・擁壁設置延長 二一・〇m

・擁壁枚幅 四〇〇mm

・擁壁枚数 二十一枚

・掘削深度 平均五・二m

・擁壁設置延長 二一・〇m

・擁壁枚幅 四〇〇mm

余剰金については期末配当として当社普通株式一株につき二円五十銭を実施。定款一部変更の件では、事業内容の多様化に対応するために「損害保険代理業」を事業目的に追加しました。次いで当社は大会社には該当しておりませんが、監査役会及び会計監査人を設置することと致しました。

当社の株主総会が四月二十三日に開催されました。毎年となりますが、株主の皆様や取引先の皆様により当社を知つて頂く情報のひとつとして株主総会の内容について順を追つてお話し

ます。次いで当社は大会社には該当しておりませんが、監査役会及び会計監査人を設置することととなりました。これにより前

の現場で建込むコンクリートトパイルの幅は1mあり、カットされないため、施工は三回の掘削・

この現場で建込むコンクリートトパイルの幅は1mあり、カッ

ターポストの幅は0・85mし

す。

トパイル後にコンクリートトパイルを一枚建込み固定し、次に移動するサイクルを一工程として順次施工しました。三回の掘削長を約2mとし、対象土に対しても固化液(セメントミルク)の注入量が不足していないかを流量計にて管理しました。また、混合固化液の流动性についても、以前TRD機で施工した際の管理値を目標値(200~220mm)として施工を行った結果

度は格段に向上了ましたが、よ

り工夫して誤差0mmを目標に今後は施工していきたいと思って

います。四月にTK350をベー

スマシンとして導入し、現有機とTRD-I型機の中間の掘削深度、さらに改良巾の増と法肩部

の宿題GW中に書きます、次回も必ず参加します等、ヨイショもあるのでしようが嬉しい励ましも数多く戴きました。

多くの記念日、大切にする日を一つでも多く持つ事は職場には貴重な事、人生にも潤いを与えてくれます。その意味で会社が最も大切にする創立記念日の前日に生涯学習の職場作りの第一回日曜教室の開催が出来ました。私は太洋に新しい記念日が出来たと二重の喜びとなりました。

三、四月号のたいよう新聞の案内でも多くの参加者を得たところは悲劇の教えから学ぶ事の尊さを確認し合い締めました。創価学会創立者牧口常三郎初代会長の学は光、無学は闇、知は力、無読解力不足を不安視したことなどとの勇気も得ました。

しかし、この意見であればお聞かせ下さい。

新生大洋の一〇年企業作りには

全ての面の質の向上

の最短コースとし

て始まつた日曜教

室。

G.W.真只中の五月二日、六十

九名の参加者を得て種々学び合

いました。二〇一〇年国民読書年と日本の国会は決議しています。活字離れによる思考力低下を懸念しての決議と思われます

が、内容はともかくタイムリーな企画ではなかつたかと思つて

います。当日は本社野下総務課長と社長の奥様、伊藤洋子様にお手伝い願い、スムーズに進行させることができました。お二人には紙面を借りて改めてお申上げます。会の終了後、今申上げます。

以上いずれの議案も賛成多数

により承認可決されました。

監査役会、会計監査人の設置

により承認可決されました。

監査役会は三名の監査役で構成され、うち二名は社外取締役として社外監査役は公認会計士と弁護士の職にあり、その専門分野での監査がお願いできるものと期

待しております。

今期の業績は金融危機から製

造業を中心とした実体経済にも

波及した時期と当社の四十三期

が重なり、期初より苦戦の連續

秋には新しい政権への交代もあり

、第3四半期までは再度の業

績予想修正も覚悟しましたが、

が、ついでいよいよ回復傾向にあり、

改良も春先より回復傾向にあり、

今期の予想数字に向けていい出

足ではないかと思つております。

改良も春先より回復傾向にあり、

今期の予想数字に向けていい出

